



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビンク・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

地味な銀行員がある日、とある架空口座を発見。そこから金を引き出して男たちを騙(だま)しながら銀座一流クラブのママへと成り上がっていく美しき悪女を描いた松本清張の小説『黒革の手帖』。何度もドラマ化された傑作です。「ヒロイン元子を演じた女優は誰だっけ?」と飲み屋で質問すれば、だいたいその人の年齢がわかります。

「武井咲」と答えたならば若者世代。「米倉涼子」と答えたのなら、中年かも。そして僕ら高齢者にとってはやっぱりこの人、かな。

清楚(せいそ)な淑女から稀代(きたい)の悪女まで、多くの名作に出演された女優の山本陽子さんが2月20日に自宅で倒れ、搬送先の静岡県熱海市内の病院で亡くなりました。享年81。死因は、急性心不全。

### 女優 山本陽子

345



山本さんは70歳のとき、それまで別荘として使っていた熱海の住居に移住を決め一人暮らしをしていたそうです。山本さんの甥(おい)でもある所属事務所の社長が以下のようなコメントを発表しました。

「亡くなる数時間前まで一緒におり、いつもと変わらぬ様子で帰宅の途へついたので、(中略)いまだに信じられません(中略)常

に傍らにいた私から見ても最期の瞬間まで自由に生きた幸せな人生でした」

急性心不全とは、何らかの原因によって心機能が急激に低下し、十分な血液を身体に送れなくなった状態のことをいいます。突然死を引き起こす疾患です。

急性心不全が一番多い季節は冬です。その理由は、寒暖差。「ヒートショック」と呼ばれるもので室内外の気温差が激しいと血圧が急激に変動し、心臓に負荷をかけるからです。山本さんが自宅のどこで亡くなったのかは明らかにされていませんが、入浴中に起きるケースが最も多いことがわかっています。令和元(2019)年の

調べでは、高齢者の交通事故死亡者が2508人だったのに対し、ヒートショック関連死は4900人です。

熱海に移住した後も健康的な生活を送られていたようです。2022年のインタビューでは、「1日1時間半。1万歩を目標に歩いている」と仰っています。

2月2日には『徹子の部屋』にご出演。僕も見ましたが、80代とは思えない艶やかなお顔でした。さらに4月には名作『そして誰もいなくなった』の舞台が決まっており、準備を進めていたそうです。

おそろしく微塵(みじん)も死を意識することなく旅立たれたことでしょう。最期の一日をいつもと変わらず自覚め、家族と会話をし、海の見える道を散歩して。先日僕は、役所広司さん主演の『PERFECT DAYS』を観ましたが、山本さんは最期の一日もパーフェクトデイズだったのでは。いつもと変わらぬ日常なのか、天寿を全うする。ちょっと羨(うらや)ましい死に方です。

# 変わらぬ日常で天寿全う